

# 三翠化学会

(題字は稲川先生)  
第51号  
平成12年4月30日発行  
**三翠化学会**  
津市上浜町1515  
三重大学農芸化学コース内  
電話/津(059)232-1211  
振替/名古屋9-5934  
印刷/株式会社ある  
TEL(052)332-0861 大8長谷川正一

平成12年度

## 三翠化学会総会開催

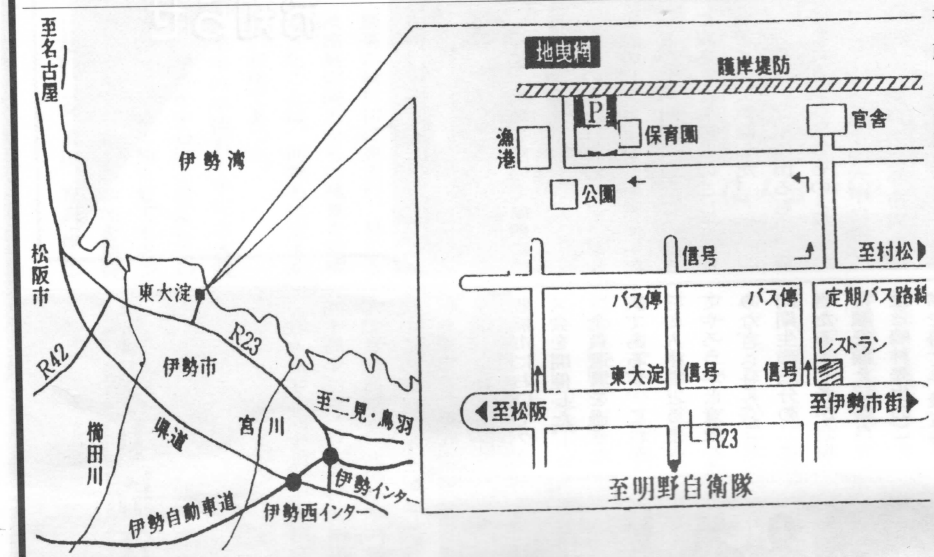
新年度を迎え新しい風が心地よく感じられる今日この頃ですが、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、母校三重大学生物資源学部では学科改組に取り組んでいましたので本同窓会新聞の発行準備に時間を割いておりましたが、ようやく準備が整いましたこととお喜び申し上げます。  
伊勢の浜辺で  
6月10日に会いましょう

### 伊勢の浜辺で

6月10日に会いましょう

初夏の頃、会員各位に置かれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、このたび、当会の親睦行事として、伊勢の浜辺で、6月10日に会いましょう。地曳網などほとんども見られなくなり、貴重な経験として、ご参加の方には昔懐かしみ、お若い方にはご自身はもとより、お子さまの社会勉強として、ぜひご参加をお願いします。なお、三翠化学会の総会を兼ねて行うこととしており、三重県支部以外の皆様のご参加を歓迎いたします。  
三翠化学会三重県支部長  
池山洋久

三翠化学会会長 福田 映  
日時 平成12年6月10日(土)  
10時~14時  
集合時間 10時  
(受付開始9時50分)  
10時30分~11時30分  
地曳網



三翠化学会三重県支部より  
地曳網へのお誘い  
荒天により、地曳網を中止する場合は、前日(6/9)の夜に電話にて参加申し込みの会員各位にお知らせします。(小雨は決行)なお、本地曳網の催しが中止となった場合は、三翠化学会総会を7月末日か8月上旬に開かれます三翠同窓会の総会(三重県支部総会)の前に開きます。

東大淀(おいず)海岸  
(地図参照駐車場あり)  
参加費 大人 五千円  
小中学生 二千円  
幼児 無料  
参加申込 同封の葉書にて、5月末日までに必ずご連絡をお願いいたします。  
持ち物 お弁当、草履、クーラー(水も用意下さい)、タオルなど  
その他 焼き貝、貝汁などを準備することとしております。

### 三翠化学会役員(平成11・12年度)

会長	福田 映 大1	基金会計	仁 大15
副会長	花山 信勝 大4	庶務	佐脇 寿郎 大17
理事	嶋林 幸英 専1 基金		内藤 茂三 大18
	渡辺 和己 専1 基金		白井 宣一郎 大19
	中川 潔彦 専2 企画		田中 忠 大21
	嶋田 協専 3 基金		古川 公男 大22
	鈴木 幸郎 専3 基金		寺沢 陽子 大23
	小林 重一 大2 総会		伊藤 真 大25
	田中 秀志 大3 基金		深田 理 大26
	*澤田寿々太郎 大4 企画		百済 勝彦 大27
	*林 貢 大4 企画		栗田 修 大28
	高橋 孝雄 大6 基金		中道 裕久 大29
	長谷川正一 大8 企画		岩瀬 誠二 大30
	今井 滋 大9 総会		稲垣 卓次 大31
	池山 洋久 大16 基金		伊藤 誠二 大32
	坪内 一夫 大20 総会		青山 英治 大33
	寺沢 修平 大23 総会		出岡 裕哉 大35
	田中 完爾 大25 企画		若山 秀人 大36
	中北 隆也 大27 総会		小林 大輔 大37
	益川 博 大30 基金		藤田 修造 大38
	原 正之 大32 総会		山田 義浩 大39
	三翠化学会三重県支部長		武村 政春 生1
	*池山 洋久 大16		林 秀謙 生2
	*伊佐 浄 大3		杉浦 和彦 生3
	関東支部長		阪本 晶子 生4
	和雄 専1		*鈴木 恒一 生5
	関西支部長		千々岩 崇 生6
	昌美 専1		*福島 民雄 生7
	若生 専1		*加納 豊 生8
	原俊夫 専3		駒田 洋院 10
			*印は新任役員

## 平成十一年度総会報告

平成十一年六月二十七日(日)に三重大学第一生協食堂にて開催されました。平成十一年度事業報告、決算報告、基金決算報告、および平成十一年度事業計画、予算案が承認されました。また、平成十二年三翠化学会役員も了承されました。ご参加いただきました会員の方々には心よりお礼申し上げます。引続いて三重県支部総会が開催され支部役員等が了承されました。

### 平成11・12年度三翠化学会三重県支部役員

役職名	三翠会支部役職名	氏名	卒業回数	役職名	三翠会支部役職名	氏名	卒業回数
理事(支部長)	副会長	池山 洋久	大16	評議員	評議員	近藤 清夫	大2
理事(副支部長・南勢)	理事	山本 信公	大4	評議員	評議員	藤本 義次	大4
理事(副支部長・北勢)	理事	花藤 三	大8	評議員	評議員	板谷 昇	大5
理事(副支部長・中勢)	理事	今井 滋	大9	評議員	評議員	鈴木 元克	大12
理事	理事	藤本 今	大10	評議員	評議員	西小 小	大14
理事	理事	福原 久	大11	評議員	評議員	寺中 修	大15
理事	理事	坂本 久	大15	評議員	評議員	小寺 隆	大23
理事	理事	坂本 久	大15	評議員	評議員	中 卓	大27
理事	理事	坂本 久	大15	評議員	評議員	原 正	大31
理事	理事	坂本 久	大15	評議員	評議員	原 正	大31
理事	理事	坂本 久	大15	評議員	評議員	原 正	大31

## 大学の近況

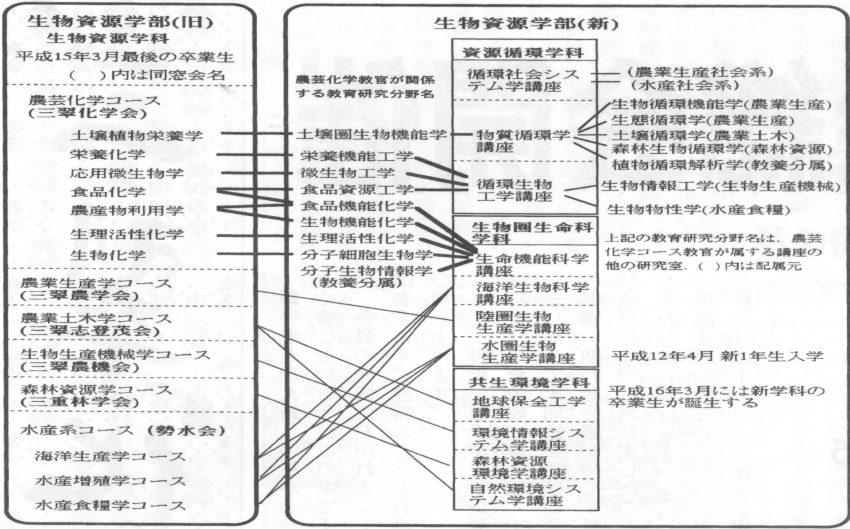
農学部と水産学部が統合し生物資源学部が発足してすでに二年が過ぎましたが、この四月から図のように三学科一講座体制に変わりました。会員の多くの大学でその名前が使われています。今話題になっています。資源循環学も発展していくと確信しています。

農業部と水産部が統合し生物資源学部が発足してすでに二年が過ぎましたが、この四月から図のように三学科一講座体制に変わりました。会員の多くの大学でその名前が使われています。今話題になっています。資源循環学も発展していくと確信しています。

同窓の皆さん、農学系の地方大学で単独で博士課程を持つているのは本学部だけであることを自慢し応援して下さい。本年度はさらに大学院の改組に取り組み学部組織の強化をはかる予定です。生き残りていくためにはいかに柔軟な組織であるかを外に向かつて表現していかなければならないこともご理解ください。本学部は今後も発展していく活力を持っており、皆さんの皆さんのご協力をお願いいたします。本学部の概要的な説明を見たい方は、ホームページをご覧ください。本学部の概要的な説明を見たい方は、ホームページをご覧ください。

ターネットで公開されています。まだ不完全ですが、教員一覧と各学科の概略的な説明を見たい方は、ホームページをご覧ください。

http://www.bio.mie-u.ac.jp/ をアクセス下さい。

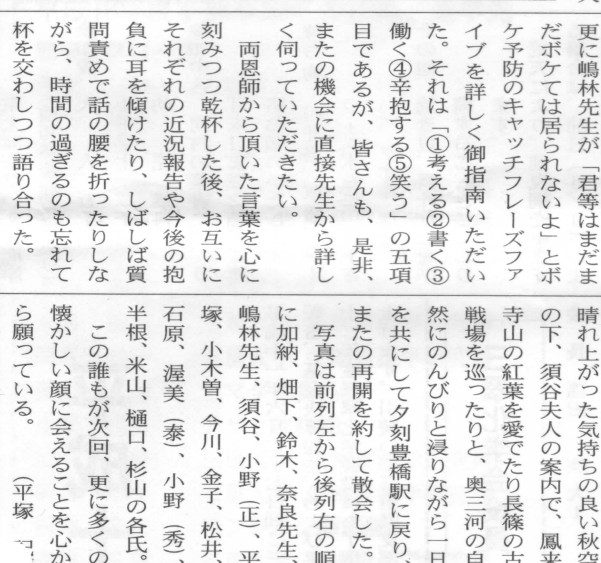


### 金の湯 銀の湯 に集う

今年のクラス会は関西で催すこと、なるべく夫婦同伴で集まることにしていた。

平成十一年八月二十九日の日曜日、神戸 有馬温泉 竹取亭まるやまに集まった。

集まったもの、遠くブラジルから松尾夫妻を始め、新幹線で神戸からくるもの、特急バスで大阪から来たもの、それぞれ六組十九名であった。



幹事 細見光夫

早速、旅装を解いて温泉につき、再会を喜び合った。

懇親の宴たけなわ、ブラジル土産のビンガーや、新製品「たまきび」焼酎の口あたりの良さに寝込んだものをのこして、夜おそくまで歓談した。

翌日は、商用に出るもの、墓参りに九州へ発つものと分かれてロープウェイで六甲に遊び、山頂から神戸の港や市街を遠望、震災を想った。

午後、それぞれに、つつが無い再会を誓って帰路についた。

写真は、前列右から細見、渋谷、和田、松尾、花山、藪本、中列右から渋谷、松尾、林、古川、細見、原田、後列右から和田、村上、藤田、宮本、梅田、藪本、花山の各君である。

我々化学七回生は、丁度卒業四十周年に当たり、且つ共に歩んできた激動の一九〇〇年代最後のこの節目の年を記念して、秋も深まった平成十一年十一月二十日、豊橋市においてクラス会を開催した。

全員還暦を過ぎた訳であるが、これからの人生をどう生きてやろうかと意欲をみなぎらせながら、同期生の三分の二に当たる十七名が会場に顔を揃え、奈良先生と嶋林先生の来席を得て午後五時、幹事の須谷氏の開会挨拶で幕を開いた。

クラス担任としてお世話下さった奈良先生から元気が健康の秘訣である「幾つ年を重ねても前向きな気持ちで失わず積極的に生きなさい」と話を聞いていただき、更に嶋林先生が「君等はまだまだボケては居られないよ」とボケ予防のキャッチフレーズ「アイブ」を詳しく御指南いただいた。それは「①考える②書く③働く④辛抱する⑤笑う」の五項目であるが、皆さんも、是非またの機会に直接先生から詳しく伺っていただきたい。

両恩師から頂いた言葉を心に刻みつつ乾杯した後、お互いにそれぞれの近況報告や今後の抱負に耳を傾けたり、しばしば質問責めで話の腰を折ったりしながら、時間の過ぎるのも忘れて杯を交わしつつ語り合った。

幹事 細見光夫

### クラス会のお知らせ

### 卒業40周年を記念して 大7 クラス会

一仕事をやり終えた者同志の、落ち着いた雰囲気になった意義深いクラス会であった。次回は小野秀一氏に幹事をお願いしている。

### C-14 In Thailand

キーポイントになっているのは実に頼もしい限りです。ちなみに今回の参加者は、梅林先生、阿部市原、岡崎、川北、小林、清水、高橋、館、田中、玉置、戸嶋、中地、西野、西元、宮城の各ご夫妻十六組、総計三十二名でした。

一方、沖繩、志摩でのクラス会に参加されたい一時を共にしました松林(旧姓奥野)武氏が一九九九年一月に急逝された。誠に残念なことですが、先に物故者となられた大橋、野沢の両氏ともご冥福をお祈り申し上げます。

さて、「C-14のタイ・チェンマイ紀行」の全行程の詳細については、梅林先生がインターネット上のホームページ「Thai Square」に掲載の「Weekly Talk」第一〇四回「三重大学の教え子同期卒業生夫妻三十名のチェンマイ旅行」に詳しく紹介されておりますので、あわせてご覧ください。(Thai SquareのURLはhttp://www.thai-square.com)

今回のクラス会は海外ということもあり、幹事役の達君は大奮闘をしてくれました。最初の案内は九ヶ月前の五月十四日から始まり、参加者の確認、ツアーの内容の検討など、出発直前の案内では海外旅行初心者の方々のための服装、装備、常備薬など計四回の案内があり、至れり尽くせりの状況の中二月十日を迎え、成田から三組、名古屋から十一組と梅林先生の奥様、那覇から一組がそれぞれタイ・バンコクに向けていよいよ出発。

(二日目) 名古屋から約五時間でバンコクに到着。ここで全員集合した。後、飛行機を乗り換えてチェンマイまで一時間十分の旅。チェンマイが近づくにつれ、地上の景色は緑が多くなってきた。日リリームの蘭園見学、市内のホテルでビュッフェランチを摂った。先生の案内でチェンマイ大学の正門から入学、広いキャンパスを通り抜け裏門から卒業?、市内のタイコットンの店でショッピングの後「Luis Hotel」のタイ古式マッサージをたっぷり二時間、あまりの気持ちよさに隣のT君の部屋からは寝息がもれてくる始末。先生はタイ式マッサージの大ファンだそう、先生の健康の秘訣はタイ式マッサージにあるとか。

そして、チェンマイ最後の夕食は市内のレストランで海鮮料理、名古屋空港で一人一本ずつ買い込んできた「Ice」の高級ワイン、日本酒などすべてを持ち込み、料理とアルコールで最高に盛り上がり、満足、満足の日でした。

(四日目) チェンマイ最後の日、市内の寺院と山岳民族製品促進センターに立ち寄った後、十時半頃先生宅へ、そこで期待のトロピカルフルーツパーティー、このために前日から二名のメイドさんが最高の果物を吟味して買求め、早朝より皮むき、種子抜きなどして待っていてくださいました。マンゴスチン(個人的には最高に美味であった)、ドリアン、ランブタン、チョンブー、マンゴ、パイア、ジャックフルーツ、ザボンなど一つ一つ先生の解説を聞きながら南国のフルーツを堪能させていただきました。その後別室で、昨年の写真で放送された番組の未公開ビデオを見せていただき、「先生のタイでのボランティア活動」の大変さ、素晴らしいことを知ることが出来ました。昼過ぎ、先生のお見送りでチェンマイ空港からバンコクへ移動、バスでアユタヤへ、夕食



の後、世界遺産の遺跡を見学、バンコク発の夜行便で帰国の途に。

(五日目)  
早朝名古屋、成田、関空にそれぞれ無事着、今回のクラス会を終了。

(後日談)  
一、今回のクラス会では、先生から宿題を出されました。それは、ツアーで良かったこと、美味しかった食べ物、これはどうもいただけない？について各三点レポートする事で、一ヶ月後に先生から集計結果の連絡を頂きましたので、項目のみ記載します。

良かったこと一位は象のトッピングがダントツ、二位が寺院、三位が山岳民族村、美味しかった食べ物の一位はフルーツパティ、二位タイ

スキ、三位飲茶、これはどうも？について意見が分かれているので割愛します。先生、ありがとうございます。

二、先生は三月五日にチェンライ県バン・ツコーン村へ行くが、梅の実がなっていたことでした。

三、三月十一日名古屋駅近くの会場でタイの写真交換を行い、思い出話に花を咲かせました(二十二名参加)。

四、今回の旅行中に決まったことですが、二〇〇四年にまた海外でクラス会をとの事、幹事は関東地区の小林、清水、坂野君の予定。今回参加された方は勿論、参加されなかった方は是非参加されます様に。それまで元気でがんばりましょう。(西元 記)

### 仙人会・舞子大会ひらく

(専2)

平成十一年度の仙人会大会は、十月二十日、昨年四月に開通した明石海峡大橋を真正面に望む眺望と見事な庭園を誇る有栖川宮別邸跡に建つ「舞子ヒラ」を会場にして開かれた。

出席者は、砂野・石井・市橋・大井・大江・大道・岸本・榎原・佐藤・十川・竹内・積木・中川・紀一・中川清・中北・中西・藤山・松中・吉田の十九名。

定刻十八時に、先ず記念撮影タイム(藤山君筆)の後、岸本君の司会で開会し、若いコンパニオンにお相手をしてもらいつつ、和やかに進行した。

途中、各自の近況報告のなかでは、中西君が謡曲「高砂」を披露するひとこまもあり、砂野君のリードで「三翠応援歌」で締め上げるまで、時の経つのを忘れた三時間であった。

さらに特筆すべきは二次会の盛り上がり。有志の面々が今年度は年令を忘れて実に深夜まで。翌日は、オプショナルとして九時に出発して「北淡町震災記念公園」へ。あらためて、野島断層の凄さと被害住宅の惨状を見



仙人会 99.10.20 舞子

仙人会 99.10.20

て、そのエネルギーに驚嘆した。ここでは大道君が連絡して、当地在住の小松節郎君(林科)が駆けつけてくれて、殆どが卒業以来の再会となった。そのお陰で、昼食の店「和千里」を教わることが出来、ラッキーだった。往路はバスで、帰路は船でと変化があったのも、みんなの思いに出に味付け出来たと思われる。それにしても、この二日間は

### 同窓会 生資47回

平成十二年一月二十九日、農芸化学科四十七回卒業生の第一回クラス会が津新町のちやんこ料理屋にて行われた。参加人数はクラス全体で約半数で社会人と学生が同じ割合であった。久しぶりに会う友人達が、雰囲気はまる



(平成十年度卒業生)

### 赤木盛郎先生叙勲祝賀会の開催

平成十一年七月三日津駅近くの「光悦」で赤木盛郎先生の叙勲祝賀会が開催されました。当日は赤木先生ご夫妻で参加いただく予定でしたが、奥様の都合で先生一人の出席となりました。大学の研究室から久松先生もご参加いただき、総勢十六名の宴会となりました。幹事役の先輩諸氏の緻密で繊細なはからいで、受付、司会、写真、花束役等すべて割り振られており、鉄壁の体制で宴会が始まりました。



赤木先生はかなりご高齢にもかかわらず、元気に歩いて入った。これ、叙勲授与の過程をあれこれとつぶさに語られました。頭も体もしく順調のように、戦後生まれの私より元気でないかと感じられるほどでした。

クラス会と異なり集まった会員は、現役を引退して余裕の人生をすごしてみえる先輩方から私らまで千差万別でしたが、最年少でも五十の台を越えており、年齢的にはやや偏りがあつたようです。時間も十分に余裕があるので、簡単な自己紹介を

て、鶏のとさかと間違えるような者までいるそうです。このような新人類を相手に勉強を教えるのはさぞ大変のようです。三重大学の学生はどうなのか、久松先生から同様の意見がなかったもので、まだまだ仕方なものでしょう。

一番遠くから参加されたのが、福岡県からの白上氏で、仕事の都合で東京から福岡へ転動して一年目で、早くもまた東京へ戻るとのことでした。彼の仕事は、大蔵省国税局で酒類に関

### 本会運営の活性化と簡略化

きますと、必ずどこかでおかしくなつていきます。そろそろ新しい運営方針を考えていく時期にきているのではないのでしょうか。例えば、年令層で運営チームを構成してはどの意見もお聞きしています。五十代、四十代、三十代で運営組織を構成しますと十年

三重大学も昨年創立五十周年記念事業を行いました。同窓会を引張ってこれた創立当初の先輩の方々はかなり高齢となつておられると同時に、三翠化学会の会員は現在約千五百名となつております。同窓会の運営の一部の会員にお願いしてい

### 伝言コーナー

昨年度は赤木先生と会員の中西康夫氏(大2)が叙勲を受賞されました。ご連絡させていただきますと同時に、これまでに受賞された会員の方がおられましたらご連絡下さい。また、いろいろな賞でも結構です。この伝言がきっかけとなりクラス会の催し等の企画の材料となれば幸いです。

連絡方法 ファックス: 059-231-9684 (事務止め)  
E-mail: hisamats@bio.mie-u.ac.jp

